

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

|         |                          |            |           |
|---------|--------------------------|------------|-----------|
| 事業所番号   | 4270202718               |            |           |
| 法人名     | 社会福祉法人 幼老育成会             |            |           |
| 事業所名    | グループホーム 花ぞ野              |            |           |
| 所在地     | 〒857-0021 長崎県佐世保市折橋町58-1 |            |           |
| 自己評価作成日 | 平成22年1月10日               | 評価結果市町村受理日 | 平成22年3月2日 |

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://ngs-kaigo-kohyo.jp/">http://ngs-kaigo-kohyo.jp/</a> |
|----------|---|

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

|       |                                     |  |  |
|-------|-------------------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構       |  |  |
| 所在地   | 〒855-0801 長崎県島原市高島2丁目7217 島原商工会議所1階 |  |  |
| 訪問調査日 | 平成22年2月2日                           |  |  |

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

閑静な住宅街にあり、ALWAYS SMILE ~いつも笑顔で~ をモットーに利用者、家族と職員がお互いに助け合い、家庭的な雰囲気作りに心がけサービスの充実を図っている。地域の住民とはバーベキュー大会などで交流を図っており、おおむね好評である。また、「主人公の日」をつくり、本人の希望する場所へドライブしたり、外食へ出かけたりして、本人、家族ともに大変喜ばれている。また、季節に応じてレクリエーションや季節の食事を提供したり、併設の特別養護老人ホームと連携してリハビリ、おくんちやクリスマス会などの合同の行事も行っている。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

当ホームは、(佐世保市中心部の高台で閑静な住宅に、)法人として介護サービス事業や福祉施設を幅広く展開されている敷地内の、特別養護老人ホームに隣接して建てられている。3階建ての1、2階がグループホームとなっていて、職員は2ユニットをローテーションで勤務されており、全ての入居者の把握ができています。地域の保育園からの訪問が頻繁にあり、入居者は園児との交流を楽しみにされている。また、ホーム内の掲示物は、手描きにしたリ、印刷物は色を抑えた配色にする等、暖かい雰囲気が感じられるよう工夫されている。今回の訪問日は、他の施設開設に伴う新規採用者の研修場所として(各階に2名ずつ)研修生が前日から配属された状態で、特別に忙しい中での調査だったが、管理者と職員は入居者に対して普段と変わらない、穏やかで笑顔を絶やさない介護サービスの提供を実践されていた。

**・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

| 項目 |  | 取り組みの成果<br>該当するものに印   | 項目 |   | 取り組みの成果<br>該当するものに印   |
|----|--|---|----|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)       | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)             | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                     | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                   | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)    | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66 | 職員は、生き活きと働いている<br>(参考項目:11,12)                                      | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                  | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)         | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている<br>(参考項目:28) | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |    |   |   |

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

| 自己              | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|-----------------|-----|--|--|--|-------------------|
|                 |     |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>理念に基づく運営</b> |     |  |  |  |                   |
| 1               | (1) | 理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 職員で意見を出し合って作り上げた理念をステーションやフロアに掲示し、また毎日の朝礼で唱和することで意識づけ、共有、実践できるよう取り組んでいる  | 独自の理念は、職員に浸透していて、理念の中の「いつも笑顔でやさしい気持ち」をモットーにして実践に活かされている。   |                   |
| 2               | (2) | 事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | 日頃から地域の方々と挨拶を交わし、行事などでも積極的に参加を呼びかけ、交流を行っている                              | 昨年の2回目のバーベキュー会では、準備や片付けなどを含めて近隣住民の参加が増えてきたことを、ホームが地域へ浸透していることを実感されている。日常の散歩や買い物などでも交流を図られている。  |                   |
| 3               |     | 事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 地域の方々には、行事に参加して頂いたり、散歩などで顔なじみになることで認知症の方の理解や支援方法を理解して頂き協力してもらっている        |  |                   |
| 4               | (3) | 運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 市の担当者や民生委員にも参加して頂き、行事や運営状況などの報告や意見交換を行い、サービスの質の向上に活かしている                 | 2ヶ月に1回開催されている。近所の交番の方にも運営推進会議に参加してもらえないかを議題に出す予定があり、地域に根ざした会議を目指し、サービスの向上に努力されている。   |                   |
| 5               | (4) | 市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 介護保険や権利擁護事業の活用のため情報を尋ねたり日頃から連絡をとって協力関係を築きサービスの向上に取り組んでいる                 | 手続きや書類関連で市の担当者と顔を合わせる機会もあり協力関係ができています。困り事は法人内での話し合いだけでなく、地域包括支援センターや市の担当窓口の活用も理解されている。   |                   |
| 6               | (5) | 身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束廃止委員会を設置、身体拘束に関する勉強会を定期的実施し、外部研修にも参加して職員の認識を深め、身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる | 法人内に「身体拘束廃止委員会」がある。1階のホーム入り口に施錠をされているが、法人内の事情で(ホーム)の職員の大幅な異動と、新規に開設する施設採用者の研修を訪問調査前日に(4名)受け入れ)入居者にも動揺が見られる。施錠は身体拘束になることを管理者や職員は十分理解されており、最近入居された方が車椅子ごと自動ドアにぶつかっていかれる事が頻繁にあり、安全面を優先と判断され施錠してある。解除は最優先で検討されており、2階ホームのドアは施錠されていない。 |                   |
| 7               |     | 虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている        | 外部研修や勉強会などで職員の認識を深め、日頃から虐待につながる行為や利用者の様子に変化がないかなどを振り返り防止の徹底に努めている        |  |                   |

| 自己 | 外部  | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
|    |     |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8  |     | 権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 勉強会などで制度について学ぶ機会を設け、職員の理解を深めるよう努めている。必要な利用者には地元の社会福祉協議会と連携して活用を支援している                                     |  |                   |
| 9  |     | 契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 入居時の契約等の説明は十分に行い、不明点がある場合は言っただき、ご本人・ご家族に納得していただいたうえで、契約等の締結を行うようにしている                                     |  |                   |
| 10 | (6) | 運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 意見要望箱を設置したり、ご家族の面会の際は意識して声かけをし、近況を報告し、コミュニケーションをとって、利用者にもご家族にも要望を表せる環境を作っている                              | 行事の際は家族参加が多く、家族とのコミュニケーションをとる良い機会と捉えて、行事のお誘いや面会を促すように働きかけ、要望などを聞き、反映していけるように取り組む姿勢が認められる。                                  |                   |
| 11 | (7) | 運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 毎月ケア会議等で、職員の意見や提案しやすい環境を作っている。また、年1回、個人自己評価表を代表者に提出し、職員の意見等を聞く機会を持っている                                    | ベテランの常勤職員が異動することによる、不安定な環境となることを受け入れ、前向きに取り組んでいく心構えが窺える。1階と2階の職員として固定していない事が優位に機能している。職員の意見は、ケア会議などで聞き取り、反映していくように努められている。 |                   |
| 12 |     | 就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 代表者は個人自己評価表などにより職員個々の努力や勤務状況を認め、勤務年数に応じた給与のベースアップや職員の家庭の状況等に配慮した勤務時間や希望した研修に参加させるなどの向上心をもてる環境や条件の整備に努めている |  |                   |
| 13 |     | 職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 管理者や職員は力量に応じ、必要な研修等に年1回以上全職員が参加できる機会を設け、スキルアップに努めている。また、月1回法人内での勉強会を行っている                                 |  |                   |
| 14 |     | 同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 研修等で知り合った同業者との情報交換を行ったり、グループホーム連絡協議会でのネットワーク作りや連絡体制作りに努めている   |  |                   |

| 自己                       | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|--------------------------|-----|---|--|---|-------------------|
|                          |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |   |  |   |                   |
| 15                       |     | 初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 事前面談で生活状態を把握し、それぞれの利用者にとってどのような支援が必要か本人や職員とも意見交換しながら、関係作りに努めている        |   |                   |
| 16                       |     | 初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 本人はもとより、家族の声にも傾聴し、不安・要望を聞き、今どのような支援が必要かなどを一緒に考え、信頼関係を築けるよう努めている        |   |                   |
| 17                       |     | 初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | その時点、状況に応じ本人と家族にその意向を聞き、必要な支援を話し合い、その対応に努めている                          |   |                   |
| 18                       |     | 本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | 利用者に料理や裁縫などを教えていただき、一緒に作業したり、ともに支えあって生活する関係作りに努めている                    |   |                   |
| 19                       |     | 本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | 面会時等に本人の様子や希望を伝え、協力してともに本人を支えていけるような関係作りに努めている                         |   |                   |
| 20                       | (8) | 馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 本人が今まで大切にしてきた人々や場所とのつながりなどが続けていくことができるよう、馴染みの場所などへの外出支援や交流支援に努めている     | 新型インフルエンザの流行により、外出の機会が減っていたが、気候や天気の良い日は外に出ようとする入居者と共に散歩に行く機会を増やしている。家族が、お墓参りや買い物などに連れて行かれる事もある。 |                   |
| 21                       |     | 利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 利用者同士がコミュニケーションをとりやすいよう職員が調整し、関わりの中で利用者のフォローや良い関係が築けるように日々の状況の把握に努めている |   |                   |

| 自己                              | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|---------------------------------|------|---|--|--|--|
|                                 |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 22                              |      | 関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | 他施設等へ移られても、本人や家族を支援できるよう面会に行ったり、情報を交換したりと関係の継続に努めている               |  |  |
| <b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |   |  |  |  |
| 23                              | (9)  | 思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | 日頃の生活や本人・家族との会話の中から意向を汲み取り本人の希望に沿うよう努力している                         | 日々の会話の中から、言葉にならない思いを把握されている。   |  |
| 24                              |      | これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 以前の生活歴や、サービス利用の経過などの情報だけでなく、本人や家族との話の中からもこれまでの暮らしぶりを把握していくように努めている |  |  |
| 25                              |      | 暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 日々の生活の中で現状を把握するとともに、申し送りや職員間の情報のやりとりの中で把握に努めている                    |  |  |
| 26                              | (10) | チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 期間ごとに計画し、本人・家族の希望や状況に応じて見直し、ケア会議を経てケアプラン作成を行っている                   | 日々の生活記録にケアプランを反映されていない。管理者は記録用紙の変更に組み込まれている。管理者は記録用紙の変更に組み込まれている。管理者は記録用紙の変更に組み込まれている。途中であり、更に改善する前向きな姿勢がある。 | サービスの実践内容を日々の記録に取り入れる事で、職員がケアプラン作成に参加している実感を持つことに繋がる。職員全体で検討されることを期待したい。 |
| 27                              |      | 個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 日々の様子や変化など全職員が情報共有できるよう個別記録に記載し、今後の支援に活かされるよう努めている                 |  |  |
| 28                              |      | 一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 病院受診の際、家族の付き添いが困難な時は職員が付き添うなど、その時々生まれるニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる        |  |  |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 |      | 地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | 交流のある地域の保育園や学校、ボランティアに行事に参加して頂いたりして、本人が日々の暮らしを安全に楽しむことができるように支援している |   |                   |
| 30 | (11) | かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 併設の医師による定期的な往診や以前からのかかりつけの医療機関の受診も支援している                            | 2週間に1回併設医療機関の医師が往診されている。入居以前からのかかりつけ病院への受診支援も職員と家族が支援されている。 |                   |
| 31 |      | 看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 日頃より利用者の健康状態を報告し、変化が生じた場合は看護師に相談し、受診や看護を受けられるようにしている。               |   |                   |
| 32 |      | 入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 利用者が入院した際は本人の情報交換を行い、安心して治療・早期退院できるよう病院関係者との関係作りに努めている              |   |                   |
| 33 | (12) | 重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 重度化する可能性がある場合は、本人や家族、職員・医師・看護師を交え話し合い、本人や家族の意向を尊重するように努めている         | 重度化や終末期への段階的な説明を医師と家族間でおこなわれ、連携を取りながらホームとしてできる範囲の対応をされている。  |                   |
| 34 |      | 急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 研修会や勉強会を通じて、応急手当や初期対応を訓練している。                                       |   |                   |
| 35 | (13) | 災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 定期的に避難訓練を行い、また、近隣の方々には災害時の緊急避難場所としての施設提供や、火災時の支援を呼びかけている            |   |                   |

| 自己                           | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|------------------------------|------|---|---|--|-------------------|
|                              |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |   |   |  |                   |
| 36                           | (14) | 一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 利用者一人ひとりの人格を尊重し、十分な配慮をして、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを常に心がけている                    | 訪問当日は、別の施設に採用された職員が前日から研修生として入られていた。食事の場面でプライドを損ねる対応が見られたが、直ぐにベテラン職員が穏やかな対応でフォローされた。 |                   |
| 37                           |      | 利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 献立を決める際に、本人の食べたいものを聞き取り入れたり、状況に合わせて決定しやすいよう選択肢を設けたりして、自己決定できるような支援をしている |  |                   |
| 38                           |      | 日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入浴の時間帯などできる限り利用者のペースや状態に合わせた対応を心がけ、本人の希望に沿った支援をしている                     |  |                   |
| 39                           |      | 身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 本人の希望に沿った洋服を用意する等、意思を尊重した支援に努めている                                       |  |                   |
| 40                           | (15) | 食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 個々に応じた量や調理法、好み・栄養バランスに十分配慮している。可能な準備や片付けは本人に声をかけて一緒に行っている               | あらかじめ献立表は決まっているが、入居者の希望で同じ食材でメニューの変更が可能であれば、取り入れるなど柔軟に対応されている。                       |                   |
| 41                           |      | 栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 摂取状況を把握し、体調等も配慮しながら栄養士・看護職員によるカロリーチェックを行い十分な栄養・水分が確保できるよう支援している         |  |                   |
| 42                           |      | 口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後、利用者の状態に合わせて声かけや見守り、介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている                             |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|--|---|--|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | 排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 排泄チェック表を利用して個々の排泄パターンを把握し、状況に合わせた誘導・介助を行っている                    | 日中は、基本的に耳元で声をかけてトイレへの誘導をされている。職員に看護師を配置し、排便がない日が続くようなら、腸音を聴診器で確認して排便調節や、夜間の尿取りパット交換など個別対応がされている。 |                   |
| 44 |      | 便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 献立の工夫や水分摂取量にも注意し、便秘の予防に努めている                                    |  |                   |
| 45 | (17) | 入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 入浴日を設定しているが、本人の希望や状態に応じて臨機応変に入浴支援を行っている                         | 週2回入浴日を決めて1階の浴室を利用されている。リフト浴の器械が導入設置されたため、隣接の施設まで連れて行く必要がなくなり、身体機能が低下している入居者も、安心して入浴できるようになっている。 |                   |
| 46 |      | 安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | 本人の生活習慣等に配慮し、状況に応じて本人の希望に沿えるよう支援している                            |  |                   |
| 47 |      | 服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 処方箋のコピーをファイルに保管し、全職員が理解できるよう工夫している。処方の変更があった場合には状況変化の観察に努める     |  |                   |
| 48 |      | 役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 食後の片付けや、洗濯物干しなどの役割を持ってもらったり、食事に好みのものを取り入れたりして、生活を楽しめるような支援をしている |  |                   |
| 49 | (18) | 日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 買物を希望される方の外出を支援したり、家族と一緒に食事や墓参り等へ出かけられている                       | 今の季節は気温の変動が激しく、外出を控えているが、それでも天気の良い時などは、近くにあるコンビニにまでの買い物支援や、ホーム周辺の散歩などをされている。                     |                   |



| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価   |                   |
|----|------|---|---|--|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | お金の管理ができる方に対しては、家族の協力を得て少額を所持されており、本人の希望で買物へ付き添ったり、精算時の見守り等支援している |  |                   |
| 51 |      | 電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 希望に応じて電話や手紙のやり取り等の支援を行っている  |  |                   |
| 52 | (19) | 居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | テーブルやソファの配置を工夫したり、季節に合わせた飾り付けをしている                                | 車椅子利用の入居者が多く、通路は幅広とり、ソファやテーブルの配置の工夫など居心地良いホールになっている。季節の花や、壁の飾りつけの工夫をされている。 |                   |
| 53 |      | 共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | 気の合う利用者同士で過ごせるようなテーブル配置や好きな所で過ごせるような配慮をしている。                      |  |                   |
| 54 | (20) | 居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 使い慣れた家具や道具を持ち込んで、思いおもいの配置をしたり、各個人が生活しやすい居室作りに配慮している               | 家具や仏壇などサイズは限定されるが、本人が居心地良く過ごされる居室となっている。                                   |                   |
| 55 |      | 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 部屋がわかりやすいようにドアに印をつけたり通路を物でふさがらない等、環境作りに努めている                      |  |                   |